



2022年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年11月14日

上場会社名 株式会社 T. S. I 上場取引所 東
 コード番号 7362 URL <https://www.t-s-i.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 北山 忠雄
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理部長 (氏名) 三宅 裕介 TEL 075-393-7177
 四半期報告書提出予定日 2022年11月14日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年12月期第3四半期の連結業績（2022年1月1日～2022年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年12月期第3四半期	3,055	29.1	145	97.2	175	162.2	112	195.4
2021年12月期第3四半期	2,366	5.5	73	△17.2	66	△43.3	38	△53.4

(注) 包括利益 2022年12月期第3四半期 112百万円 (195.4%) 2021年12月期第3四半期 38百万円 (△53.4%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年12月期第3四半期	73.53	—
2021年12月期第3四半期	26.33	—

(注) 潜在株式調整後1株あたり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年12月期第3四半期	2,924	1,039	35.6
2021年12月期	2,879	927	32.2

(参考) 自己資本 2022年12月期第3四半期 1,039百万円 2021年12月期 927百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2022年12月期	—	0.00	—	—	—
2022年12月期（予想）	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2022年12月期の連結業績予想（2022年1月1日～2022年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,235	24.5	236	37.0	259	38.3	183	32.6	119.77

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

2. 2022年12月期（予想）の1株当たり当期純利益は、予定期中平均発行株式数によって算出しております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 ー社 （社名）ー、除外 ー社 （社名）ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2022年12月期3Q	1,528,000株	2021年12月期	1,528,000株
② 期末自己株式数	2022年12月期3Q	56株	2021年12月期	ー株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2022年12月期3Q	1,527,959株	2021年12月期3Q	1,444,484株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(会計方針の変更)	7
(追加情報)	7
(セグメント情報)	8
(収益認識関係)	8
(重要な後発事象)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、2022年1月からオミクロン株の国内感染者数の急増によるまん延防止等重点措置が実施され、再び経済活動への制限が課されました。同措置は3月には解除されておりますが、新型コロナウイルスの世界的感染拡大の長期化による供給網の混乱に加え、ロシア・ウクライナ情勢、急激な円安の進行等により、資材・エネルギー価格の高騰によるインフレの長期化も懸念され、経済情勢は、依然として先行き不透明な状況が続いております。

介護業界におきましては、高齢化がさらに進むことで介護サービスの需要は高まっております。2021年度は介護事業所の倒産件数は3年ぶりに減少はしたものの、サービスを担う人材の十分な確保が難しく、人材確保が介護事業者の大きな経営課題になっております。当社は「介護職員処遇改善加算」「介護職員等特定処遇改善加算」「介護職員処遇改善支援補助金」等の制度を活用し、事業所の管理者を中心とした還元の強化と、職員からの紹介手当の拡充を実施し、人材確保と定着のための環境を整備することに努めてまいりました。

2022年9月末時点の運営状況につきましては、当第3四半期連結累計期間において「アンジェス岐阜岩地」29室を新規開設するとともに、各拠点において引き続き新型コロナウイルス対策及び既存拠点の安定に注力してまいりました。同期間の稼働率は、まん延防止等重点措置下にあった中でも、29棟921室の全社稼働率は94.6%、オープン1年経過後拠点に限っては稼働率が97.0%となっており、高い稼働率を維持しております。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は30億55百万円（前年同四半期比6億88百万円増）、営業利益は1億45百万円（同71百万円増）、経常利益は1億75百万円（同1億8百万円増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1億12百万円（同74百万円増）となりました。

セグメント別の経営成績は次のとおりであります。

①介護事業

当事業におきましては、前連結会計期間において新規開設した4拠点が当第3四半期累計期間を通して業績に寄与したこと及び当第3四半期連結累計期間において1拠点を新規開設したことにより増収となりました。2021年9月に滋賀県長浜市に「アンジェス神照」を、愛知県みよし市に「アンジェスみよし」を、同11月に浜松市中区に「アンジェス浜松佐鳴台」を、滋賀県大津市に「アンジェス瀬田」を、2022年8月に岐阜県岐阜市に「アンジェス岐阜岩地」を新規開設しております。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は24億75百万円（前年同四半期比3億97百万円増）、セグメント利益は1億25百万円（同68百万円増）となりました。

②不動産事業

当事業におきましては、当第3四半期連結累計期間において、自社保有物件「アンジェス加古川」のオーナーチェンジのための販売を行いました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は5億79百万円（前年同四半期比2億90百万円増）、セグメント利益は63百万円（同7百万円減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は29億24百万円となり、前連結会計年度末に比べて44百万円増加しました。これは主に、現金及び預金が1億69百万円、建設仮勘定が1億71百万円、建物及び構築物が47百万円増加したことに対し、販売用不動産が2億68百万円、土地が44百万円、売掛金及び契約資産が33百万円減少したことによるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は18億84百万円となり、前連結会計年度末に比べて67百万円減少しました。これは主に、短期借入金が1億72百万円、契約負債が1億26百万円、流動負債その他が19百万円増加したことに対し、1年内返済予定の長期借入金及び長期借入金が2億86百万円、前受金が75百万円減少したことによるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は10億39百万円となり、前連結会計年度末に比べて1億12百万円増加しました。これは、親会社株主に帰属する四半期純利益1億12百万円により利益剰余金が増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当連結会計年度の業績につきましては「2021年12月期 決算短信」で公表いたしました2022年12月期の連結業績予想から変更はございません。新型コロナウイルス感染症の影響については、2022年12月期末まで影響を及ぼすとの仮定を置いております。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	874,716	1,044,659
売掛金	341,518	—
売掛金及び契約資産	—	307,596
販売用不動産	396,404	128,382
未成工事支出金	—	270
その他	180,230	163,359
貸倒引当金	△474	△1,048
流動資産合計	1,792,394	1,643,219
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	625,273	672,964
土地	313,533	268,993
建設仮勘定	32,469	203,725
その他(純額)	44,198	47,920
有形固定資産合計	1,015,475	1,193,603
無形固定資産		
その他	5,056	15,798
無形固定資産合計	5,056	15,798
投資その他の資産		
その他	66,598	72,569
貸倒引当金	△218	△1,130
投資その他の資産合計	66,380	71,438
固定資産合計	1,086,911	1,280,841
資産合計	2,879,306	2,924,061
負債の部		
流動負債		
工事未払金	17,710	696
買掛金	17,673	17,572
短期借入金	150,000	322,500
1年内返済予定の長期借入金	69,331	45,405
未払法人税等	55,882	41,480
賞与引当金	39,263	45,515
前受金	75,366	—
契約負債	—	126,754
その他	304,271	324,169
流動負債合計	729,498	924,095
固定負債		
長期借入金	1,207,660	945,528
その他	14,776	14,844
固定負債合計	1,222,437	960,372
負債合計	1,951,935	1,884,468
純資産の部		
株主資本		
資本金	374,200	374,200
資本剰余金	276,000	276,000
利益剰余金	277,170	389,521
自己株式	—	△128
株主資本合計	927,370	1,039,592
純資産合計	927,370	1,039,592
負債純資産合計	2,879,306	2,924,061

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)
売上高	2,366,833	3,055,263
売上原価	1,971,429	2,539,794
売上総利益	395,403	515,469
販売費及び一般管理費	321,468	369,684
営業利益	73,934	145,784
営業外収益		
受取利息	6	9
受取配当金	4	4
補助金収入	—	20,533
助成金収入	17,774	9,233
その他	10,566	14,798
営業外収益合計	28,351	44,578
営業外費用		
支払利息	16,193	14,301
上場関連費用	19,079	—
その他	101	649
営業外費用合計	35,374	14,951
経常利益	66,911	175,412
税金等調整前四半期純利益	66,911	175,412
法人税、住民税及び事業税	27,494	62,461
法人税等調整額	1,381	599
法人税等合計	28,875	63,061
四半期純利益	38,036	112,350
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	38,036	112,350

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)
四半期純利益	38,036	112,350
四半期包括利益	38,036	112,350
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	38,036	112,350

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財またはサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財またはサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。

従来、工事契約に関して、進捗部分について成果の確実性が認められる工事には工事進行基準を、それ以外の工事には工事完成基準を適用しておりました。これを第1四半期連結会計期間より、一定の期間にわたり充足される履行義務は、原則として、履行義務の充足に係る進捗度を見積り、当該進捗度に基づき収益を一定の期間にわたり認識する方法に変更しております。履行義務の充足に係る進捗度の見積りの方法は、見積総原価に対する発生原価の割合(インプット法)で算出しております。

収益認識会計基準等の適用による、当第3四半期連結累計期間の損益及び期首の利益剰余金に与える影響はありません。

収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「売掛金」に含まれる契約資産に相当する金額は、第2四半期連結会計期間より「売掛金及び契約資産」に含めて表示し、「流動負債」に表示していた「前受金」及び「その他」に含まれる契約負債に相当する金額は、第1四半期連結会計期間より「契約負債」に含めて表示することといたしました。なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度及び前第3四半期連結累計期間について新たな表示方法による組替えを行っておりません。

また、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第3四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。

これによる、当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結財務諸表への影響はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の感染拡大にかかる会計上の見積りについて)

前連結会計年度の有価証券報告書 第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項 (追加情報) (新型コロナウイルス感染症の感染拡大にかかる会計上の見積りについて)に記載した新型コロナウイルス感染症の感染拡大の事業への影響や収束時期等を含む仮定に重要な変更はありません。

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自2021年1月1日至2021年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	介護事業	不動産事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,078,204	288,629	2,366,833	—	2,366,833
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	213,329	213,329	△213,329	—
計	2,078,204	501,958	2,580,162	△213,329	2,366,833
セグメント利益	56,707	71,566	128,274	△54,340	73,934

(注) 1. セグメント利益の調整額△54,340千円には、セグメント間取引消去等△7,252千円及び各セグメントに配分していない全社費用△47,087千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益との調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自2022年1月1日至2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	介護事業	不動産事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,475,899	579,363	3,055,263	—	3,055,263
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	62,485	62,485	△62,485	—
計	2,475,899	641,848	3,117,748	△62,485	3,055,263
セグメント利益	125,314	63,654	188,969	△43,184	145,784

(注) 1. セグメント利益の調整額△43,184千円には、セグメント間取引消去等5,810千円及び各セグメントに配分していない全社費用△48,995千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益との調整を行っております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

当第3四半期連結累計期間(自2022年1月1日至2022年9月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント		合計
	介護事業	不動産事業	
一時点で認識する収益	2,475,899	485,326	2,961,226
一定期間にわたって認識する収益	—	94,037	94,037
顧客との契約から生じる収益	2,475,899	579,363	3,055,263
その他の収益	—	—	—
外部顧客への売上高	2,475,899	579,363	3,055,263

(重要な後発事象)

(固定資産の取得)

当社は、2022年10月14日開催の取締役会において、連結子会社の株式会社北山住宅販売にて下記のとおり固定資産を取得することを決議し、契約を締結しました。

1. 取得の理由

連結子会社である株式会社北山住宅販売において、当社が運営するサービス付き高齢者向け住宅を新規開設するにあたって、当該施設を新たに建設するものであります。

2. 取得資産の内容

- (1) 取得資産 : 土地及び建物
- (2) 所在地 : 兵庫県宝塚市
- (3) 取得資産の概要 : サービス付き高齢者向け住宅(土地・建物)全48室(予定)
- (4) 取得価額 : 約462百万円(予定)
- (5) 資金計画 : 自己資金及び金融機関からの借入

3. 取得の日程

取締役会決議日 2022年10月14日
契約締結日 2022年10月19日
物件引渡期日 2023年1月(予定)
※物件取得後、建設工事を予定しております。

4. 当該事象の損益への影響

本件による当連結会計年度(2022年12月期)の業績に与える影響は軽微であります。